

# ソラマメ

やさいの里営農センター 営農指導員 川島 俊一

# 農作業 テクニカル ダイアリー

# 水 稲

グリーンプラザ 営農指導員 古関 義明

モザイク病(写真②)は、アブラムシがウイルスを媒介する

**病害虫防除について**



写真① 倒伏したソラマメ

全体的に天候不順だった昨年に比べて作柄はおおむね良好で、1の発生比率も良く、収量も前年対比で2割ほど増加しました。

昨年は降雪や降霜の被害が少なく、低温による被害が少ない年でした。そのため、生育は4月まではおおむね順調に推移しました。ゴールデンウィーク中の風雨の影響で、一部の圃場で倒伏した株がみられ(写真①)、生育遅れや品質の低下がみられました。

**昨年度の振り返り**

●**予防・対処法**  
連作を行うと感染する恐れが高まるので、土壌消毒を作付け前に行うか、同一圃場での栽培はできれば5年以上最低でも1年(空けましょう)。また、定植時にアトマイヤー1粒剤を処理し、年内にアブラムシが発生するようであれば追加で消毒を行います。気温が上昇するところからアブラムシが発生するので(写真③)、十分に予防を行うことが重要です(表②参照)。



写真② ソラマメのモザイク病 (「ルーラル電子図書館」より引用)

ことで発生する病気です。生育初期(年内)に感染すると、成長が阻害されて枯死に至る場合もあります。

表② 未成熟ソラマメのモザイク病・アブラムシ類に登録のある薬剤一覧

対象病害虫	薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期	使用回数
えそモザイク病 一年生雑草	バスアミド微粒剤	30kg/10a	播種21日前または定植45日前まで	1回
アブラムシ類	アトマイヤー1粒剤	3kg/10a	播種時	合わせて1回
		2g/植穴	定植時	
	モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	スミチオン乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内

## 営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！  
栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市 営農なんでも相談室  
(本所 営農部内)  
☎0120-972-860

## 「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから(登録無料)



JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。



写真③ ソラマメに付いたアブラムシ

田植え直前に稲わらをすき込むと、腐熟の進んでいない稲わらは生育初期の窒素不足や除草剤の効果低下、ガス沸きによる根腐れなど、圃場にさまざまな悪影響を及ぼします。稲わらをすき込む際に次の3つを意識すると、稲わらがきれいに分解され、ケイ酸分として吸収されます。

**稲わら腐熟のポイント**

おいしい米を作るためには、稲刈り後のこの時期が重要です。来年に向けて、今年のうちから圃場の準備をしましょう。

**おいしい米作りは土づくりから**

稲わらの腐熟で供給されるケイ酸の量は、水稲が必要とする量の約70~80%なので、不足する分の20~30%を資材で補給しましょう。

＜ケイ酸の効果＞

- ① 葉や茎を丈夫にする
- ② 病気に強くなる
- ③ 高温障害対策
- ④ 倒伏軽減
- ⑤ 収量・品質アップ

【お勧め資材】  
農力アップ、苦土重焼燐、粒状ようりん、粒状ケイカル

**土づくりのポイント**

すき込みの際は石灰や窒素の補給のために、石灰窒素などの資材を散布するのがお勧めです。

【お勧め資材】  
石灰窒素  
(稲わらに散布し、5~10センチの浅めにすき込む)

③ 石灰の施用(土壌pHを改善し、微生物が活動しやすくなる)

表① 土づくり資材一覧表

目的	資材名	施用量(10a当たり)	特長	商品写真
稲わらの腐熟促進	石灰窒素(窒素20%)	10~20kg	有機物を腐熟する微生物の増殖に必要な窒素と、分解する働きを良くする石灰が含まれているので効果的。	
ケイ酸の補給	農力アップ(ケイ酸20%)	60~100kg	利用効率が高いため、従来のケイ酸資材より少量で効果を発揮。鉄・マンガンなどの微量元素もバランス良く同時に補給可能。	
	粒状ケイカル(ケイ酸30%)	100~200kg	水には溶けず、根から出る有機酸に溶けて吸収されるので、秋施用が効果的。	
リン酸の補給	苦土重焼燐(リン酸35%、ケイ酸9.4%)	40kg	火山灰土壌や基盤整備圃場等に効果的。速効性と緩効性のリン酸を含むため、効果が継続する。	
	粒状ようりん(リン酸20%)	40~80kg	く溶性リン酸のため、秋施用が可能。	